

# 戦地いくより遊園地

## ママの会 300人パレード

札幌  
 「だれの子とももくろまさない」と札幌市で9日、安保関連法案に反対するママの会

人が参加しました。パレード前の集会で、リレートークで安保関連法案の廃案を訴え、「きみの手ときみの手」を歌いました。9歳と5歳の子とも

がいたる医師の栗原真紀子さん(41)は「日常の忙しさで気づかないふりをするのはもうできないと思うのだから、子どもたちが安心して過ごせる社会を残しましょう」と呼びかけました。パレードでは、テーマカラーのピンクのTシャツを身に着けた母親や、ベビーカーを押す父親、孫を連れられた祖父

母たちだが「武器を持たずに手をつなごう」「戦地に行くより遊園地」と平和ながら歩きしました。チラシを見て初めて行動に参加した青山真実さん(42)は「テレビで法案のことを見ていて、子を持つ親として何かしなくてはと思っていた。何が何でも阻止したいです」と話しました。

### 戦争法案反対



「子どもを守ろう平和を守ろう」と唱和する子どもや母親たち=9日、札幌市

### 山口県弁護士会が集会

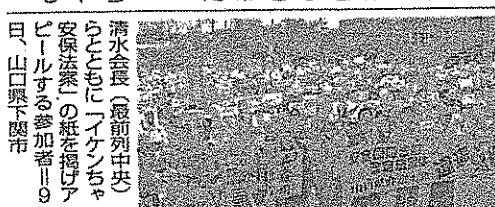
安倍首相の地元、山口県下関市で9日、戦争法案に反対する山口県弁護士会と同下関地区会主催の市民集會が開かれました。約500人が参加し、「イゲンちゃん安保法案」と書いた紙をいっせいに掲げ、「アピールしました」。

の常正寺住職・高橋見性さん(66)は「お釈迦(しゃか)様の教えである『兵戈無用(ひょうごむよう)』軍隊も武器もいらさない」と憲法9条に通じる。死守しなければならぬ」と語気を強めました。

児童文学作家の那須正幹さん(73)は「くそ臭いときに集会をしなくちゃいけないのは、安倍が悪いからだ」と批判し、たたきつけようと呼びかけました。「こんな場に出てくるのは初めて」という下関市民劇場の藤田典子事務局長は、憲法と同じ1947年生まれだとし「私たちの規範である憲法を絶対に守ろう」と訴えました。

参加した弁護士がリレートーク。若狭会長は「戦後、憲法に基づき一度も戦争をしなかった日本を、戦争する国に変えるもので絶対に認められない」と強調。23日午後3時、市城址公園で開催する県弁護士会主催の県民パレードへの参加を呼びかけました。同宣伝に呼び、

興弁護士の清水弘彦会長(56)が「暴走する内閣を国会が止められないなら、国民が阻止する他はない」と訴えると、会場からも「そうだ」と声を「志を同じくする市民と連帯し、運動していきたい」と述べました。「仏様が『おまえ、行け』と言われたから来ました。リレートークでこう切り出した、長門市油谷(あぶら)



清水会長(福前中央)らとともに「イゲンちゃん安保法案」の紙を掲げアピールする参加者。9日、山口県下関市

「県憲法共同センター」と書き「同日、約300名離れた繁華街で宣伝。日本共産党の野村せつ子県議は「戦争法案を廃案にさせよう」と声をかけ、通行中の人たちに集会を知らせるチラシを手渡していました。

# 子を平和な未来を

8/10  
あつた